

令和7年度 学校関係者評価委員会 「学校評価アンケート」の結果について

I 学校評価アンケートについて

学校関係者評価に関するアンケート調査（以下、本調査）の概要については、以下の通りである。

（1）本調査の実施時期・方法

生徒・保護者・地域に対して令和7年10月17日に通知し、令和7年10月30日までに回答してもらった。前年度と同様に、回答者はパソコンやタブレット等の端末でインターネットを通じて回答し、送信して提出する方式で実施した。

（2）本調査の対象・回答方式

生徒、保護者、地域を対象者として、区教育委員会が設定する共通評価項目と、本校独自の項目について、「A とても思う」「B 思う」「C あまり思わない」「D 思わない」「E わからない」の5件法で回答する方式で実施された。

（3）本調査の回答結果

本調査の回収（回答）結果は下表の通りであった。

※小数点以下、四捨五入。

回答者属性	対象者数	回答者数	回収率	前年度
生徒	504名	385名	76%	82%
保護者	504名	251名	50%	54%
地域	73名	35名	48%	59%

（4）その他

□「学校関係者評価」の調査項目について、共通評価項目及び本校の独自評価項目について、文言の整理をした他は、基本的には昨年度と同一である。

□回収率が低下傾向にあり、学校運営の状況をよりの確に把握するためにも、次年度は、回収率の向上のために、リマインド通知を送信する等の工夫が求められる。

Ⅱ 学校経営方針の「重点目標」に関する評価結果について

学校関係者評価委員会は、生徒、保護者、地域による本調査の項目に対する「A とても思う」「B 思う」の回答割合を「肯定的評価」と捉えた上で、その肯定的評価を中心に調査結果を概観するとともに、適宜、当委員会における見解や改善の方向性を示したい。

本年度の本校の「経営方針」において掲げられた重点目標に関する調査結果については、下表の通りである。

【経営方針における重点目標と学校関係者評価の結果及び達成状況】

※小数点以下、四捨五入で切り捨て。

<凡例> ○…「達成」 ●…「未達成」

回答者	重点目標における項目と数値目標	令和7年度 結果	達成 状況	(参考) 前年度	前年度 比
生徒	「学校生活は、楽しい」を <u>90%</u> 以上とする。	91%	○	89%	+2
	「烏山中学校が好きである」が <u>90%</u> 以上とする。※独自項目	92%	○	89%	+3
保護者	「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい」が <u>90%</u> 以上とする。	89%	●	82%	+7
生徒	「先生は、わかりやすく授業をしている」※ ¹ が <u>90%</u> 以上とする。	93%	○	94%	-1
保護者	「本校は、分かりやすい授業をしている」※ ² が <u>70%</u> 以上とする。	66%	●	54%	+12
生徒	「本校はあいさつをよくする学校である」が <u>80%</u> 以上とする。	94%	○	90%	+4
保護者	「本校はあいさつをよくする学校である」が <u>80%</u> 以上とする。	84%	○	74%	+10
地域	「本校はあいさつをよくする学校である」が <u>80%</u> 以上とする。	66%	●	63%	+3

※¹「先生は、映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしている」

※²「本校は、映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしている」

学校経営方針に提示されている重点目標8項目について、数値目標の達成状況は、8項目中5項目だった。また、8項目のうち7項目については、前年度よりも改善傾向が伺え、未達成となった3項目についても改善傾向が伺える。

Ⅲ 調査項目の評価結果と所見について

以下では、具体的な調査項目の評価結果について概観する。

1 授業・学習指導について

(1) ICTを活用した授業の分かりやすさ

学校経営の重点目標である「先生は、映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしている」に対する生徒の肯定的評価は93%（前年度94%）だった。前年度より1ポイント下落したものの、依然として高い水準にあり、生徒の肯定的評価の割合がここまで高い点は、教員の授業づくりに向けた努力の結果であり、高く評価できる。

一方、保護者の肯定的評価は66%（同54%）と、例年通り、生徒に比べて低いものの、前年度よりも大幅な改善傾向が見られる（前年度比12ポイント上昇）。授業公開や、家庭における生徒と保護者との会話等を通じて、授業の様子について理解が深まった可能性が考えられる。

以上をふまえると、今後も引き続き、タブレット等のICT機器の活用を通じた分かりやすい授業が期待される。また、今後とも、保護者に対する公開授業の積極的な参加を促しつつ、さらに理解を深めていくことが求められる。

(2) 指導方法と評価について

①授業展開や教材等について

「先生は、課題について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている」について、生徒の肯定的評価は94%（前年度同率）と極めて高かった。これに関連して、「授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」については92%（同96%）、「黒板の書き方やプリントなどを工夫している」については89%（同92%）の肯定的評価だった。

2項目については肯定的評価の割合が若干下落したものの、前記のICT活用を通じた分かりやすい授業と合わせて、教員の授業改善に向けた努力や工夫により、総じて生徒が満足する学習指導が行われているものと評価できる。

他方、保護者の「子どもが考えることや、課題を解決することを大切にしている」の肯定的評価は73%（前年度68%）、「考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」は77%（前年度78%）だった。例年通り、生徒より低い傾向であるものの、前記の通り、重点目標とされている「分かりやすい授業をしている」の肯定的評価の割合が大幅に上昇しており（12ポイント上昇）、総じて学習指導に対する保護者の理解について改善傾向が伺える。引き続き、授業公開や保護者会等を通じて理解を深めていくことが求められる。

②提出物やテストなどに対する評価について（生徒のみ）

生徒の「提出物やテストなどを分かりやすく評価している」の肯定的評価は88%（前年度79%）で、前年度よりも改善傾向にあり、総じて、生徒の納得感を得た評価が行われているものと考えられる。

引き続き、教員は担当教科の授業を通じて、日常的な提出物や定期的なテストにおける学習状況の積み重ねが評価されることや、総合的に「評定」に反映されていること等を丁寧に説明していくことが必要である。

③少人数授業（数学・英語）について（本校独自項目）

少人数授業に関する生徒の肯定的評価は63%（前年度67%）だった。

学年別で見ると、1年生65%（同60%）、2年生59%（同69%）、3年生65%（同74%）であり、生徒の学習的ニーズを捉えた上で、少人数を活かし、苦手意識をもつ生徒にとって分かりやすい学習指導の工夫や改善が求められる。

2 生活指導に関することについて

（1）生徒の規範意識と教員による生活指導に対する理解

生徒の「学校での過ごし方やルールについて考えて行動している」の肯定的評価は92%（前年度91%）だった。これに関連して、生徒の「先生は、学校での過ごし方やルールを生徒に考えさせる指導をしている」の肯定的評価は88%（前年度85%）だった。加えて、「先生が指導した学校での過ごし方やルールについて理解できる」は93%（前年度90%）だった。このように生徒の肯定的評価の割合は極めて高く、総じて、生徒の納得感を得た生活指導が行われているものと評価できる。

他方、保護者の「本校は、学校での過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている」の肯定的評価は75%（前年度同率）、「本校は、教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している」の肯定的評価は84%（前年度79%）だった。

以上から、本校における生活指導は多くの生徒及び保護者の納得感や理解を得ているものと評価できる。今後も引き続き、丁寧な生徒指導を期待したい。

（2）あいさつについて

本校独自の評価項目の「あいさつをよくする」について、前記の通り、生徒の肯定的評価は94%（前年度90%）、保護者は84%（同74%）、地域は66%（前年度63%）だった。例年通り、三者で「あいさつをよくする」ということについて認識のずれが伺えるものの、前年度と比べ、三者とも改善傾向が見られ、特に保護者の肯定的評価は大幅な改善傾向が見られる。

あらためて、本校が「あいさつの鳥中」を掲げることの理由や背景と、「あいさつ」の意義について、日常的な生活指導を通じて生徒の理解を深めるとともに、地域の方々や来校者に対するあいさつも積極的に行えるよう、促していくことが期待される。

（3）独自項目（生徒のみ）：生徒の他者尊重・共感や意見表明

生徒の「違う意見を持った人とも仲良くできる」の肯定的評価は87%（前年度88%）、また、関連して「困っている人の思いを受け止めることができる」の肯定的評価は87%（同86%）だった。このことから、大半の生徒が他者尊重・共感の姿勢を有しているものと評価できる。

他方、「自分の意見を他人に対して伝えることができる」の肯定的評価は77%（同72%）、否定

的評価は22%（前年度26%）で、前年度よりも改善傾向にあるものの、依然として、生徒の5人に1人は自分の意見を伝えることができない状況が伺える。

こども基本法の施行（2023年4月）により、こどもの意見表明と意見尊重の必要性が高まりつつある今日、生徒が意見を表明したり、他者の意見を聴いたりするための姿勢やスキルはもちろんのこと、意見を言いたくても言えない人たちへの配慮は重要である。各教科や特別活動（特に学級活動や生徒会活動、学校行事）における「対話的な学び」を通じて、これらの感覚やスキルを涵養していくことが求められる。

3 学校行事について

（1）学校行事の楽しさ・達成感

「学校行事は、楽しい」と感じる生徒の肯定的評価の割合は97%（前年度94%）で、保護者の「学校行事は、子どもにとって楽しい」は94%（前年度92%）だった。大半の生徒及び保護者にとって、楽しいものとして捉えられていることが伺える。

また、学校行事の達成感についても、生徒の肯定的評価の割合は94%（前年度93%）、保護者は95%（前年度90%）と極めて高くなっている。また、「行事などの取り組みで豊かな感性が育っている」（独自項目）の肯定的評価の割合については、保護者が89%（同82%）、地域が80%（同79%）だった。

以上から、本校が「行事の鳥中」を掲げている通り、学校行事が生徒、保護者、地域にとって、それぞれ有意義なものとして認識されるように展開されていると評価できる。

（2）生徒の意欲の尊重

「先生は、意欲を大切にしている」について、生徒の肯定的評価は97%（前年度91%）、保護者は87%（同79%）だった。本校の教員が、生徒ひとりひとりの意欲を尊重した指導をしているものと評価できる。また、この項目と関連して、生徒の「私は、企画を立てたら、それをやり遂げる自信がある」（独自項目）の肯定的評価は71%（同69%）だった。

今後も生徒の意思や意欲を尊重しつつ、生徒が自信を持って行動していけるように支援していくことが求められる。

4 キャリア教育について

（1）キャリア・パスポートに書いた目標に向けた行動等

「キャリア・パスポートに書いた目標について、考えて行動している」の生徒の肯定的評価は65%（前年度51%）、否定的評価の割合は29%（同40%）だった。一方で、保護者の「本校は、キャリア・パスポートの目標について子どもに考えさせる指導をしている」の肯定的評価は44%（同48%）であり、他方で「わからない」の割合は32%（同39%）だった。

以上をふまえると、生徒の「キャリア・パスポート」の活用については、中幅な改善傾向にあることが伺え、引き続き、「キャリア・パスポート」の意義を生徒に理解させつつ、適宜、生徒に記入や提出させる等を通して、指導していくことが求められる。また、保護者に対しては、「キャリア・パスポート」の存在について、保護者会や学校だより等を通じて、周知していくことが必

要である。

(2) 進路や将来の仕事に関する授業・情報提供について

生徒の「進路や将来の仕事について、考える授業がある」の肯定的評価の割合は85%（前年度65%）と大幅な改善傾向が見られる。また、「進路や将来の仕事に関する情報を提供している」の生徒の肯定的評価の割合も80%（同70%）と改善傾向が見られた。

他方、保護者の「進路や将来の仕事について、考える授業がある」の肯定的評価の割合は68%（前年度58%）、「進路や将来の仕事に関する情報を提供している」については66%（同54%）と、生徒に比べれば低いものの、改善傾向が見られる。

今年度の改善傾向につながった要因を分析した上で、次年度以降も「キャリア教育」を意識した授業等の取り組みが期待される。

(4) 生徒の将来の夢や進路と家庭における相談について

生徒の「将来の夢や目標を持っている」（独自項目）の肯定的評価の割合は64%（前年度62%）だった。なお、否定的評価については28%（同32%）で、どの学年も同程度の割合だった。

関連して、「将来の夢や目標について保護者と話をすることがある」の肯定的評価は69%（同61%）で学年が上がるに連れて割合が高くなっている（3年生で77%）。他方、保護者の「将来の進路について子どもと話をすることがある」の肯定的評価は85%（同89%・3年保護者は92%）と、子どもの意識とは差があることも伺える。引き続き、このような生徒の意識差もふまえて、保護者に対しては、生徒の進路を含めた将来の夢や目標について家庭において対話を求めることが必要である。

5 先生（教職員）について

(1) 教員の指導の丁寧さ

生徒の「先生たちは、生徒にいていねいに指導している」の肯定的評価は94%（前年度93%）だった。一方、保護者の「本校は、丁寧に指導している」に関する肯定的評価は79%（同72%）だった。本校の教職員の指導全般に対して、生徒や保護者からの信頼や支持が得られているものと評価できる。

(2) 先生への相談のしやすさ

先生たちに「相談しやすい」に対する生徒の肯定的評価は75%（前年度70%）だった。関連して、生徒の「学校に親しく話すことのできる先生がいる」（独自項目）の肯定的評価は81%（前年度同率）だった。

他方で、「相談しやすい」の否定的評価（相談しにくい）が20%（前年度25%）、「親しく話すことのできる先生がいる」の否定的評価（親しく話すことのできる先生がいない）も14%（前年度15%）いる。

以上をふまえると、引き続き、生徒がより相談しやすい雰囲気や体制等をつくっていくことが求められる。

6 全般について

(1) 学校生活の楽しさ・達成感

重点項目である「学校生活は、楽しい」に対する生徒の肯定的評価の割合は91%（前年度89%）で、保護者の「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい」に対する肯定的評価は89%（同82%）だった。

これに関連して生徒の「烏山中学校が好きである」（独自項目）の肯定的評価は94%（前年度90%）だった。また、学校生活の達成感については、生徒の肯定的評価が84%（同79%）、保護者は86%（同74%）だった。なお、保護者の「本校の教育活動は、子どもの成長につながる」に対する肯定的評価は86%（同80%）となっている。

以上をふまえると、本校に対する生徒や保護者の満足度や愛着度は非常に高いものと評価できる。

(2) 家庭学習の状況及び塾における学習状況（生徒のみ）

「家庭で宿題や学習アプリなどで学習をしている」について、生徒の肯定的評価の割合は72%（前年度65%）、保護者は64%（同55%）といずれも前年度より改善傾向が見られる。また、「塾で学習をしている」（生徒のみ項目）に対する生徒の肯定的評価の割合は71%（同率）だった。学年別では1年生59%（同57%）、2年生69%（同率）、3年生82%（同92%）と学年が上がるにつれて増えていく傾向が伺える。

家庭学習については改善傾向にあることをふまえつつ、次年度以降も引き続き、学校として宿題や家庭学習の意義や方針等についてあらためて確認し、生徒と保護者と共有するとともに、特に通塾しておらず、学力の定着が図られていない生徒への学習支援が必要である。

(3) 学び舎の小学生・小学校等との交流（生徒のみ）・「学び舎」に関する情報提供（保護者・地域のみ）

「学び舎」の小学生・小学校等との交流機会（学び舎の小学校に行ったり、小学生が来たりする機会がある）について、生徒の肯定的評価の割合は29%（前年度25%）だった（否定的評価は51%・「分からない」は20%）。保護者の肯定的評価の割合も43%（同42%）と低い。

他方、「学び舎」の区立（幼稚園）小学校に関する情報提供について、保護者の肯定的評価は36%（否定的評価31%、「わからない」が33%）、地域では40%（否定的評価40%、「わからない」は20%）と、相変わらず低い傾向となっている。

以上をふまえると、引き続き、烏山学舎の取り組みの認知を高めるために、「学び舎」活動とその情報提供の充実をさらに検討していくことが必要がある。

(4) 体力の向上と健康な生活

「体力の向上や健康な生活に取り組んでいる」について、生徒の肯定的評価の割合は75%（前年度同率）、保護者は80%（76%）となっている。

他方、生徒の23%（同26%）は否定的評価をしており、昨今の生徒の健康状況や生活状況の傾

向（特に視力低下や睡眠不足等）をふまえつつ、体力づくりや生活改善等に向けた保健指導・学習の充実が求められる。

（５）部活動の楽しさや達成感

生徒の「部活動は、楽しい」の肯定的評価は82%（前年度同率）、保護者の「部活動は、子どもにとって楽しい」の肯定的評価は80%（同78%）だった。関連して、部活動の達成感に関する肯定的評価は生徒が80%（同77%）、保護者が82%（同77%）だった。

このように部活動については、約8割の生徒や保護者から高い支持を得つつ、好意的に成果を認識されているものと評価できる。

教員の働き方改革（長時間労働の解消）の観点から部活動の地域移行が進められている社会的状況（特に休日の活動は地域移行）をふまえ、部活動指導員の活用と、適切な休養日及び活動時間の設定を通じて、教員の労力的負担を可能な限り減じながら、生徒や保護者のニーズに応じていくことが期待される。

8 学校からの情報提供について（保護者・地域のみ）

（１）様々な便りによる情報提供

保護者の「様々な便りなどで、保護者に情報を提供している」の肯定的評価は94%（前年度87%）だった。なお、これに関連して、保護者の「学校からの連絡文書や各種たよりなどをよく見ている」（独自項目）の肯定的評価は74%（同80%）だった。他方、地域の「学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子が分かる」についての肯定的評価は60%（前年度88%）だった。

以上から、保護者に対する情報提供は十分に行われているものと評価できるが、地域に対する情報発信については改善が必要である。

（２）ホームページやメールなどによる情報提供

「本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している」の肯定的評価は92%（前年度85%）で、前年度よりも肯定的評価の割合が上昇傾向にあることが伺え、保護者に対するホームページやメールなどによる情報提供は高く評価できる。他方、地域の「学校のホームページに、学校からのお知らせや学校生活の様子が分かる情報が掲載されている」に対する肯定的評価は60%（同74%）だった。

特に、保護者の世代はスマートフォンやタブレット等から日常的に情報を得ているものと考えられ、今後ともホームページの充実を通じた情報提供・発信が求められる。一方で、地域に対する情報発信については、前記と合わせて、改善や工夫が必要である。

（３）学校公開・保護者会等（保護者・地域のみ）

「学校公開や保護者会などで、生徒の様子が分かる」について、保護者の肯定的評価は87%（前年度84%）だった。関連して、保護者の「学校公開にすすんで参加している」の肯定的評価の割合は57%（前年度56%）、否定的評価は42%（前年度同率）だった。保護者の学校公開への参加

については、保護者が授業や生徒や教職員の様子等をはじめとする本校の運営状況を知る上で重要な機会であり、本評価にも関わることから、引き続き、積極的な参加を促していくことが求められる。

他方、地域の「学校公開や道徳授業地区公開講座などで学校の様子分かる」の肯定的評価は71%（前年度82%）だった。

（４）保護者同士の連絡・連携

保護者の「私は烏山中学校の他の保護者との連絡や連携をよくとっている」（独自項目）の肯定的評価は54%（前年度47%）で前年度より改善傾向にあるものの、否定的評価は42%（同47%）だった。なお、関連して、保護者の「学校行事、PTAや地域主催の行事などにすすんで協力している」の肯定的評価は60%（前年度56%）だった（否定的評価は38%）。

以上をふまえると、4割程度の保護者は保護者同士の関わりが薄く、生徒や学校の様子等の情報を個別に得ている可能性が高いことから、学校のホームページ等の充実が求められる。また、引き続き、保護者間の連絡・連携の必要性についてもPTAの協力も得つつ、理解を求めていくことが必要である。

9 学校運営について

（１）学校の重点の周知と教職員の教育活動

保護者の「本校は、保護者に指導の重点を伝えている」の肯定的評価の割合は79%（前年度72%）で、前年度から改善傾向が伺える。また、関連する「教職員が指導の重点を理解して教育活動に取り組んでいる」に対する保護者の肯定的評価は73%（同64%）、「今年度の学校の指導の重点を理解している」の肯定的評価は56%（同47%）と、同じく改善傾向が伺える。

改善傾向の要因を分析しつつ、引き続き、指導の重点について、保護者に対して説明、周知を図っていくことが求められる。

（２）地域の意見への対応（地域のみ）

「地域の意見に対して、学校はていねいに説明・対応している」について、地域の肯定的評価の割合は57%（前年度63%）だった。なお、否定的評価は20%（同4.7%）と前年度よりも増えていることから、前記の地域への情報発信・提供とともに、学校運営委員会等の機会を活用しながら、地域からの意見を汲み取りつつ、丁寧に説明責任を果たしていくことが求められる。

（３）地域の人的・物的資源の活用と地域の活動への協力

「地域の人や施設を教育活動に生かしている」について、保護者の肯定的評価の割合は60%（前年度61%）、地域は63%（同61%）だった。関連して、保護者の「本校は、地域の活動などに協力的である」に関する肯定的評価の割合は70%（同68%）、「『地域との連携について』地域に情報を提供している」については42%（同55%・「わからない」が34%）となっている。

以上から、本校の地域の活動への協力については一定の評価ができるものの、本校の教育活動に地域資源を活用する点では課題があるものと評価できる。引き続き、「社会に開かれた教育課程」

の実現の観点からも、授業や部活動等における地域人材の活用や、地域の物的資源の活用がいつそう求められる。

(4) 学校・地域の連携組織の状況（地域のみ）

「学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている」の肯定的評価の割合は 38%（前年度 54%）で、今年度は一昨年度の水準にまで下落していることが伺える。他方、「学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている」については 37%（同 58%）だった。

今後、世田谷区教育委員会は、学校協議会や学校運営協議会、学校関係者評価委員会の関係を整理し、組織体制の改編も検討されていることもふまえつつ、学校・地域の連携組織の在り方について、特に、全国的にも先駆的に導入された学校運営委員会（法律上は「学校運営協議会」制度）については、本校の実情に応じて改善を図っていくことが期待される。

(5) 学校の安全体制について

①安全な学校づくりについて

保護者の「本校は、安全な学校づくりを進めている」の肯定的評価の割合は 79%（前年度 74%）だった。また、地域の「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている」に対する肯定的評価の割合は 88%（同 86%）だった。このことから、本校の学校の安全性については、おおむね保護者や地域の信頼を得ているものと評価できる。

一方で、「学校は安全性を高めようと地域と協力している」の地域の肯定的評価の割合は 64%（同 63%）となっており、今後、より安全、安心な学校の実現に向けて、学校安全（生活安全、交通安全、災害安全）に関する課題について、学校運営委員会や地域の関係団体・組織を通じて共有しつつ、その解決に向けて協力していくことが必要である。

②安全教育・管理について（保護者のみ項目）

保護者の「避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている」の肯定的評価は 86%（前年度 85%）だった。また、「自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している」の肯定的評価は 70%（同 74%）だった。

このことから、本校の安全教育（安全指導）・安全管理については、前記の安全体制と合わせて、保護者の信頼を得ているものと評価できる。ただし、自然災害時の対応に関する保護者の否定的評価（9%）や「分からない」（10%）の状況をふまえると、生徒や保護者への周知徹底が求められる。

2025 年 1 月 19 日に、政府は首都直下地震の被害想定と対策を公表したことや、全国各地で大地震が頻発している状況をふまえると、あらゆる機会を通じて、生徒、保護者、地域に対して、今後、地震をはじめ大規模な自然災害があった際の対応（生徒の引渡しや学校待機、避難所開設等）に関する周知を徹底していくことが求められる。

IV 総合評価

令和7年度の学校評価をふまえると、本校の学校運営は安定して行われているものと評価できる。

特に、今年度の学校経営方針において掲げられている重点項目8項目のうち5項目は数値目標を達成していること、また、8項目のうち7項目については前年度の数値目標を上回っており、改善傾向が見られる点について高く評価したい。また、重点項目のみならず、他項目についてもその多くで肯定的評価の割合が、前年度よりも上昇している傾向が伺うことができる。

特に、本委員会が高く評価するのは、生徒の「学校生活は、楽しい」「烏山中学校が好きである」に対する肯定的評価の割合が90%以上であること、また、学校（教員）の核である学習指導に関する評価項目「分かりやすい授業をしている」の肯定的評価の割合が93%と高く支持されており、学習指導に関する他4項目についても肯定的評価の割合が88%以上であることである。また、「先生たちは、生徒にていねいに指導している」に対する生徒の肯定的評価の割合も94%、他に生活指導に関しても同様の高い傾向が評価結果に表れている。また、それらの保護者の肯定的評価の割合は生徒よりは低いものの、7割以上であり、一定の支持を得ているものと評価できる。なお、「学校行事の烏中」と謳われている通り、学校行事については、生徒・保護者ともに肯定的評価の割合は90%を超えている（特に生徒は97%）。

このような結果は、本校の校長をはじめとする教員の日々の真摯な姿勢とたゆまない努力の成果であり、あらためて敬意を表したい。

他方で、特に重要な課題は、「学校と地域との連携」である。特に、「学び舎」である「烏山学舎」と、「学校運営委員会」「学校協議会」等の活動状況とその情報提供である。これらに対しては、生徒や保護者、地域に共通して否定的評価や「分からない」の回答割合も高いことから、改善が必要である。特に、地域の否定的評価・「分からない」の割合が高くなっている傾向にも留意が必要である。そこで、地域への情報提供・発信について、町会への学校だよりの配布等を通じた改善策の検討が必要である。また、これらに関連していえば、「学校運営委員会」については、世田谷区は全国的にも先駆けて区立小・中学校の全校設置を進めたことから、成果や課題について各地から注目される所であり、今後、学校運営協議会制度への移行に合わせて成果が見える形での運営が期待される。

なお、他の課題としては、生徒については「キャリア教育」（キャリア・パスポートの活用、将来の夢や目標）、また、保護者については保護者同士のつながりと、学校公開等への参加が課題としてあげられる。

以上の課題解決を視野に入れつつ、次年度においても、安定した学校運営を期待したい。